



朗々と響く詩吟のステージ発表

ぜんらじみち安原

安原の
いま

総人口 4,503人 (前年比-42人) 【男 2,165人 女 2,338人】
安原地区公民館 〒390-0802 松本市旭2-11-13 TEL 0263-39-0701

第24回安原地区文化祭・ひろば祭り



色とりどりの手まりに「わぁ、ステキ」



初企画の福引で一等賞が当たったよ



色々な種類のパンで人だかり



とれたてのじゃがいも、松本一本ねぎが人気でした

晴天に恵まれた10月12日、安原地区文化祭・ひろば祭りが開催されました。旭町小学校ブラスバンド部による元気溢れる金管合奏をかわきりに、9団体のステージ発表と13団体の展示発表が行われました。

今年開催期間が一日に短縮されましたが、魅力がギュッとつまった文化祭だったのでないでしょうか。



おいしいカレーで大賑わい

澤柳政太郎と島木赤彦のお話 〜大正時代の女性教員論争について〜



10月26日、安原地区人権啓発推進協議会・安原地区まちづくり協議会文化部会共催の講演会が催されました。澤柳政太郎先生生誕160周年企画として、長野県退職女性校長会顧問の三澤禧美子先生が澤柳政太郎と島木赤彦による大正時代の女性教員論争について講演しました。

天白町出身の澤柳政太郎は開智学校を卒業。東京帝国大学文学部哲学科を経て文部省に入り、義務教育年限の延長など日本の学校制度の根本を作りました。成城学園創設者でもあります。

島木赤彦は歌人として有名ですが、広丘小学校などの校長を務め、教育会誌「信濃教育」の編集主任となりました。

父親の影響を受けて進歩的な考えを持つ澤柳は女性の地位確立のための論文を発表し女性教員を擁護したのに対して、島木は儒教的な考えから女性教員排斥論を「信濃教育」に載せ反発していました。

三澤先生は、両者が置かれた環境や思想の違いによりこうした論争が生まれ、教職と



いう貴重な職場を女性に奪われるのを恐れた当時の男性は見て見ぬふりをしたのではないかと推察しています。もし澤柳という人物が長野県に生まれなかったら、現在の県内の女性の地位は変わっていかもしれない、と締めくくりました。

三澤先生が旭町小学校の教員時代に子どもがお世話になったという参加者や、島木赤彦の人物像が変わったとの感想を述べる人もいました。

★元気がいっぱい！★ 旭町小学校 1学年遠足



10月1日、さわやかな秋晴れの下、旭町小1学年の遠足が行われました。校外活動を通じて同級生との仲を深め広め、約束を守りながら楽しく遊ぶことが目的、約70人の児童らがアルプス公園を目指しました。全体の行程は約9km、初めての遠足は笑顔があふれていました。

今回の遠足は旭町小学校コミュニティスクール(地域と学校協働で児童・生徒を育てる事業)の一環で、安原地区の住民ボランティア3人が同行しました。参加者は「子どもたちから頼られることが嬉しく癒される」と喜んでいました。担任の先生からは「とても助かりました。安心して遠足を行えました」と感謝の言葉をいただきました。



元気に坂を登る子どもたち

いちよう並木

部屋で育てるヤシ類

「シュロチク」と仲間たち
ヤシ科の常緑低木で熱帯・亜熱帯・暖帯に分布する。

日本の暖かい地方で地植えも可能、小さな種は鉢植えで楽しむことができます。

我々が観賞用として育てているシュロチクの正式名エラビンヤシ。原産はメキシコ、枝立ち性で乾燥に大変強い。

ヤシ類は用途の広い植物、ココヤシ、ナツメヤシ、サラッカヤシは食用、アブラヤシは多量の油(パーム油)を含み食用油として使われ、ナツメヤシ

の実はデーツといい嫌味の無い甘さで大変美味しい。

ココヤシの胚乳は若い液体状の時は飲料、熟した実は生食、料理の材料に胚乳乾燥させ石鹸やマーガリンに使われます。

ヤシ類の幹は枝を出さず高く伸びて耐久性に優れ建築材に、葉は丈夫な繊維で屋根材、園芸用シュロ縄、敷物と用途が広い。身近で大変お世話になっている植物で興味津々。

シュロチクを育てましょう。

水は月に一度を目安に液肥ハイポネックス1,000倍液を与えてください。



シュロチクとナツメヤシの実

枯れ枝はこまめに切り取り見栄え良く管理願います。